

〔續日本後紀仁明〕嘉祥三年二月庚戌朔、聖躬不豫、甲寅、御病殊劇、中放諸鷹犬及籠鳥、唯留鸚鵡、

〔枕草子三〕鳥はことゝころの物なれど、あふむいとあはれ也、人のいふらんことをまねぶらんよ、
〔夫木和歌抄二十七〕正治二年百首
あはれともいはやいはんことのはをかへすあふむのおなじ心に
寂蓮法師

音呼

〔書言字考節用集五〕音呼音呼鳥小者

〔本朝食鑑六〕九官

即秦吉了也、略或以九官稱鸚哥、然九官者秦吉了也、鸚鵡之小也、李時珍曰、秦吉了即了哥也、今俗誤以了哥爲鸚哥、華音曰、伊武古、故本邦俗以小鸚鵡呼爲伊武古焉、

〔重修本草綱目啓蒙三十三〕鸚鵡略

一種音呼コト呼モノアリテ、暹羅ヨリ來ル、即鸚哥ノ音ナリ、大サ伯勞ノ如ク、或ハ伯勞ヨリ大ナルモアリ、凡ソ數十種皆羽色鮮麗比スベキモノナシ、丹青絲造皆及バズ、熊大古大者爲鸚鵡、小者爲鸚哥、ノ文アルニ因リ、秘傳花鏡ニ鸚哥ヲ以テ子トシ、鸚鵡ヲ以テ母トス、此說非ナリ、鸚哥ニ青音呼コ、猩音呼イ音呼ン音呼コ、ベ音呼ニ音呼イ音呼ン音呼コ、五音呼色音呼イ音呼ン音呼コ、ラ音呼パ音呼ナ音呼イ音呼ン音呼コ、セ音呼イ音呼ガ音呼イ音呼イ音呼ン音呼コ、ダ音呼ル音呼マ音呼イ音呼ン音呼コ、ム音呼ラ音呼サ音呼キ音呼イ音呼ン音呼コ等アリ、

〔百千鳥上〕あふはないんこ
餌がい
米、キビ、西瓜之種もよし

音呼は類多キ物ゆへ、其毛色大小きわめがたし、先あらましをえるす、あふはなるんこといふは、大きき土鳩に似て、總身こくもえぎの緑青色也、尾羽黒き上に、群青の照り有、兩羽の裏紅のごとく赤し、其色至而見事也、上背黄にかば色下背黒し、さつま芋、飯も喰ふ、羊かんなども喰ふ也、西瓜の種もよし、